

令和6年 新年賀詞交換会

1月11日、牛久運動公園武道館で新年賀詞交換会が開催され、266人の参加者が牛久市のさらなる飛躍、発展を祈りました。ここでは、主催者代表の沼田和利市長のあいさつを紹介いたします。

市長あいさつ(要旨)

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆さまと共に、新春をお迎えし、牛久市の一層の飛躍と発展を祈念できますことは、誠に喜ばしい限りです。

年明けから、石川県能登半島地震の発生、そして羽田空港での航空機事故といった、心が痛むニュースが飛び込んできました。

犠牲となられた方々に改めてお悔やみを申し上げますとともに、被災した皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

市では能登半島地震における被災地支援として、義援金の募金箱を設置しました。義援金と

いう形で多くの市民の皆さまの力強いご支援・ご協力をお願いできましたら幸いです。そのほか、

1月10日から14日まで、茨城県を通じ防災課の職員を派遣しており、31日から2月6日まで、保健師も現地の方の健康管理支援に従事します。今後も物的支援や人的支援など、できる限りの支援を実行してまいります。

また、県南地域で大規模災害が発生した際のあらゆるリスクを想定した対応を、検討・訓練しておくなど、市民の皆さま、関係機関と一体となって災害に対する備えを強化してまいります。

昨年を振り返って

昨年一年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行となり、かつて祭りやワイワイまつりが盛大に開催され、まさに賑わいが戻ってまいりました。

また、昨年12月に水戸で開催されたG7茨城水戸 内務・安全担当大臣会合の歓迎レセプションにおいて、牛久シャトーのビール

と、麦と葡萄 牛久醸造場のクラフトビールが振舞われるといううれしい話題もありました。

このように明るい話題がある一方で、市職員による使途不明金の問題など大変残念な事件も発生してしまいました。この不祥事については、私ども職員一人一人が教訓として重く受け止め、再発防止策を講じて、一日でも早く市民の皆さまの信頼回復に努めてまいります。

より良い市政へ向けて

昨年は私自身生まれ育った、愛する郷土牛久の、さらなる発展のためにとの思いから、牛久市長選挙に立候補し、10月から就任させていただくこととなりました。市長に就任して3カ月余りになりますが、今も、その責任と皆さまからの期待の大きさを感じ、日々身の引き締まる思いです。

今後、未来の牛久を笑顔と活力に満ちたまちに変えていくため、今までの市政をより一層良いものにするために、さまざまな施策や課題に対して、果敢に挑戦し、加速度的にアップデートしてまいります。

少子高齢化、人口減少社会の到来に加え、電気料金をはじめとする光熱費や生活必需品の高騰など、市民生活はより一層厳しい環境にあります。

そういった直面する課題を解決しながらも、子どもたちの未来のために、今取り組まなければならぬ「まちづくり」や「地域振興」「教育改革」など大きな政策を柔軟な発想と行動力で実現してまいります。

ハートフルクーポン券

「地域振興」の一つの取り組みとして、昨年12月に販売したハートフルクーポン券事業について、これまでプレミアム率が10%だったものを今回から20%に引き上げました。さらに、購入方法についても、これまでは数日で完売となっていたことから市民限定販売とし、また先着順による販売からはがきによる申し込みとしました。おかげさまで、大変多くのお申し込みがあり、抽選とさせていただきます。購入できなかった方にはお詫び申し上げますとともに、今回の販売方法を分析したうえで、改善しながらより良い方法を考えてまいります。

そのほか、地域活性化、福祉、教育、行政分野等々、私の公約については、現在編成中の令和6年度の当初予算(案)や各計画に具体的な施策、事業として盛り込んでまいります。そして、ワクワク・ドキドキするようなイベントや仕掛けなど、新たなチャレンジも行ってまいりますので、市民の皆さま、関係各位のより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

本年が充実した、実りあるものとなるように、笑顔のまち、牛久市を目指して、皆さまと一緒にがんばってまいります。

結びに、この新しい年が、皆さまにとってより良い一年となりますよう、心より祈念いたします。私のあいさつとさせていただきます。